

令和6年度 第5回「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：令和7年3月26日（水）午後6時30分～午後8時00分

会場：墨田区役所13階 131会議室

次第

- 1 開会
- 2 報告事項
 - (1) 区への答申について（資料2）
 - (2) 「墨田区こども計画」について（資料3）
 - (3) 「墨田区こども条例」について（資料4）
 - (4) 「墨田区児童館のあり方」について（資料5）
 - (5) 「こどもワクワクフェスティバル」について
- 3 その他
- 4 閉会

配布資料

資料1	墨田区子ども・子育て会議委員名簿
資料2	区への答申について
資料3－1	墨田区こども計画
資料3－2	墨田区こども計画（概要版）
資料4	墨田区こども条例
資料5	墨田区児童館のあり方

出席者（敬称略）

○委員

西村 孝幸（小梅保育園長）
西島 由美（にしじま小児科院長）
野原 健治（社会福祉法人興望館理事長）
浅見 佳子（相模女子大学准教授）
古屋 真（駒沢女子短期大学教授）
八重田 裕一郎（墨田児童会館館長）
東 百代（本所白百合幼稚園長）
土屋 恵子（主任児童委員）
末田 豪（立花吾嬬の森小学校PTA会長）
平林 秀敏（墨田中学校PTA会長）
山口 仁美（両中地区青少年育成委員会委員長）
賀川 祐二（NPO法人病児保育を作る会代表理事）
真鍋 文朗（区民公募委員）
眞能 貴代（区民公募委員） ※オンライン出席
三井田 香奈（区民公募委員）
本谷 友実（区民公募委員）
横山 竜也（区民公募委員）
金澤 里美（八広幼稚園長）
国分 幸美（太平保育園長）

<欠席委員>

星野 操（文花子育てひろば施設長）
尾口 優子（青少年委員協議会委員）
徳原 広美（株式会社コーリン堀川取締役保育事業担当）
高田 宏美（キャリー保育園東向島施設長）
浮津 あゆみ（緑小学校長）
吉岡 大司（桜堤中学校長）

<傍聴者>

なし

○事務局出席者

酒井 敏春（子ども・子育て支援部長）、岩瀬 均（教育委員会事務局次長）、石岡 克己（子育て支援課長）、秋山 和栄（子育て政策課長）、細谷 勇治（子ども施設課長）、野澤 典子（子育て支援総合センター館長）、梅原 和恵（副参事（子ども・家庭支援連携担当））、中尾 清美（福祉保健部副参事（相談支援担当））、大八木 努（地域教育支援課長）

議事概要

1 開会

2 報告事項

- (1) 区への答申について（資料2）
- (2) 「墨田区こども計画」について（資料3）
- (3) 「墨田区こども条例」について（資料4）
- (4) 「墨田区児童館のあり方」について（資料5）
- (5) 「こどもワクワクフェスティバル」について

事務局	（報告事項（1）～（5）について資料に基づいて説明）
委員	・条例の周知について、パンフレットなどの紙媒体だと見ない子どもがいる。 また、サステナブルの視点からも、動画で発信する等、周知方法を工夫いただきたい。
委員	・子どもに条例を説明してもらう動画をつくり発信する等、読むのではなく話してもらう方が、子どもにとってわかりやすいと思う。
委員	・学校の授業で、先生から子どもたちに条例について説明してもらうと良いと思う。
事務局	・おっしゃるとおり、様々な形で発信することを検討していきたい。
委員	・区長に答申した際、区長も力を入れていきたい分野とおっしゃっていた。 ・これからの子ども・子育て会議の役割は、条例を運用していく中での課題についての議論や計画の進捗管理である。

3 その他

委員	・現任期の委員の皆様による子ども・子育て会議としては、本日が最後の会議となるため、任期を通じたご意見やご感想など、お一人ずつ順番にお伺いしたい。
委員	・最近は新型コロナウイルスなどの感染症は落ち着いてきたが、メンタルの相談が多い。 ・統合失調症については、オープンダイアログといって患者の話をよく聞くことが大切だそうである。子どもの話をよく聞いて理解するということにも通じると思う。 ・質問に対して答えを言っていけないと書かれている本もある。そういったことも「こどもまんなか」に関係してくると思う。
委員	・保育士の働く環境について意見を下さっていただいた。現場の声が少しでも反映されると良いと思う。

委員	・自分の子どもが住むこのまちを生活しやすくしていきたい、様々な方の子どもに対する悩みに貢献したいという思いでこの会議に参加してきた。 ・これまでのやり方から変える必要があるものはしっかりと変えていく、目の前の人に寄り添っていくことが大切だと思う。
委員	・学童の問題が一番のネックで、地域で見守ってもらえる場が多くなればという思いでこの会議に参加していた。この２年間で近所に学童保育が新設されるなど、区の動きがみられて感謝している。 ・子どもが通う保育園の保育士の定着が問題であったが、状況が少し変わってきて定着してきている。
委員	・本当に困っている子どもや保護者がたくさんいるので、自分が携わる発達障害の子どもを持つ親の会や英語教室などでも、できることを少しでも進めていきたい。 ・学びの多様化学校を墨田区でも１つ作っていただきたい。
委員	・墨田区の公式 LINE がとても便利なので、周知されると良い。 ・子どもの SNS での問題を解決できる環境をつくっていただきたい。
委員	・墨田区の人口はまだ社会増があり当面は大丈夫だと思うが、自然増を目指して子どもの人口を留め、区全体の人口を維持することが大切だと思う。 ・子育てしやすい、産みたい人が希望の人数を産めるよう少子化対策に取り組んでいただきたい。
委員	・学校の先生が「こどもまんなかすみだ」を間違えて認識しているように思うことがあったので、是正されると良いと思う。 ・こどもワクワクフェスティバルの出店者から、会場の交通の便が悪いという意見があったので、今後検討いただきたい。
委員	・この会議はワークショップを取り入れていて、活発な意見が多くでているので、今後も色々な方が意見を言いやすい会議運営をしていただきたい。 ・地域全体で子どもを見守る必要がある。こども条例でも「すべての施設」と書かれているとおり、地域全体でそれぞれの方が役割を持ち、地域皆で子どもを見守るという意識を醸成していくことが大切である。
委員	・ヤングケアラーなどを目の当たりにしていると、子どもの選択肢の差が大きくあると感じる。子どもの選択肢を増やしてあげることによって、こども条例やこども計画が活かさせると良い。また、保護者に条例や計画を伝えていくことも必要である。
委員	・主任児童委員をもっと周知していきたい。 ・以前、この会議で修学旅行の費用を出せない子どもたちがいるという話をした。その後、区で修学旅行の費用助成の事業ができ、要望を区につなげることができる会議だと思った。 ・SSW（スクールソーシャルワーカー）の人数がとても少ないので、人数を増やしていただきたい。

委員	・墨田区の子どもや子育てに関わる皆様が一堂に会するこの会議に参加させていただき色々なご意見をお聞きして大変勉強になった。墨田区の子どもたちの力になれるように努めたい。
委員	・学童クラブは数年で800人近く受け入れるなど、子育て政策課と一緒に待機児童解消に向けて取り組んできた。 ・「子どもに関わる施設全てが、子どもたちのためにできることを全力でやる」という内容の条文が入ったのは非常に大きなことである。 ・児童館職員の育成・資質向上を進め、子どもたちが安全・安心に過ごせる場を地域の中でつくっていかねばと思う。
委員	・自分自身は次世代育成行動計画や児童館のあり方検討などに関わってきた。この子ども・子育て会議で検討したこども条例ができるということで、嬉しく思う。
委員	・普段、学生と関わるうえで大事にしていることは、学生たちが「安心・安全」に学べることである。保育の世界で子どもとの信頼関係という言葉もあると思うが、この会議の皆様も安心・安全や信頼関係を大事にされていることを感じた。 ・こども条例やこども計画は作ったことで満足せず、履行していくために検証の積み重ねが大事だと思う。それが、より良い墨田区を作っていくことにつながると思う。
委員	・「傾聴」だけでなく、「聞く」という意識していないときに入ってきた言葉も大事だと思う。子どもの何気ない言葉の中にも様々な表現や思いがある。構えていない時にさらっと言っている言葉も「聞く」こと、そして子どもやその対象を見ていくことが大事である。 ・保護者の心の安定はもちろん大事であるが、「子どもから」を忘れてはいけない。 ・声がなくても子どもの姿を丁寧に見ると声を発している、それを受け取れるのが大人の責任だと思う。小さい子どもだけではなく、中学生、高校生も何でも言葉で話してくれるわけではない。 ・声にならない声を聞いていく。その言葉でつくった条例や計画を実現していくことは挑戦だと思う。
委員	・保育園に卒園児が遊びに来てくれるなど、長くこの仕事をしていると、子どもたちの成長を間近で感じることができる。大人にとっては早いと思うが、子どもたちにとっては一瞬一瞬がかけがえのない時間であると思う。 ・子どもたち自身には力がある。私たちが指導することが大切な部分もあるかもしれないが、その子自身が持っている力を引き出せる環境を大人がつかめるか、ということも大事である。

	・子どもたちが一歩踏み出す時に、ベースキャンプの役割を周りの大人や教育、保育関係の施設や地域が作っていけると良いまちになっていくと思う。その一助となるような条例や計画を皆さんとともにつくれたことを嬉しく思う。
会長	・2年間本当にありがとうございました。これをもって、令和6年度第5回「墨田区子ども・子育て会議」を閉会し、私も会長の任を降りさせていただく。
事務局	・2年間、本当にありがとうございました。来年以降、ご意見も活かしながら会議をより良い形で活性化させていきたいと思う。 ・事務局として、子ども・子育て支援部長、教育委員会事務局次長から一言ずつご挨拶申し上げる。
事務局 (酒井子ども・子育て支援部長)	・さまざまなご意見をいただき、ありがとうございました。 ・5年前に子ども・子育て支援部に着任し、現行計画を動かしていくというタイミングであったが、感染症が拡大している時だったので、計画を実現していくスタンスが薄れて、幼稚園、保育園含めて感染症対策を重視していく時期であったように思う。お子さん、保護者の皆さんにもご迷惑をおかけしたと思う。 ・今回改めて子ども・子育て支援総合計画と子ども・若者計画を組み込んで、子どもを年齢で区切らない計画にすることができた。委員の皆様のご意見を踏まえたものが無事結実した。 ・子どもの意見も聴きながら、こども条例をつくった。さまざまな形でご意見をお聞きしながら、こども計画やこども条例を含めて行政として実のあるものにしていきたいと思っている。 ・地域全体で子育てというお話もあったが、その地域には行政も含まれている。この計画をしっかりと実現していきたいと思う。この2年間本当にありがとうございました。
事務局 (岩瀬教育委員会事務局次長)	・1年間この会議に参加させていただいた。私にとっては耳の痛いお話も多数あったが、大変勉強になった。 ・教育委員会の新規事業の目玉として修学旅行無償化がある。学校を巣立つ子どもたちにクラスメイト全員で修学旅行に参加してもらいたいという熱い思いが予算につながった。最近では物価高で、京都に行くにしても1つ2つ行き先を減らさざるを得ない現状があるため、そこをカバーできる予算を組んだ。 ・子どもの意見を聴くことは大事である。意見を言えない子、いじめにあっている先生にSOSを出せない子、障害を持っている子、伝えたいけれど伝えられない子がいた場合、先生の指導力の部分があるのでこれまで以上に小中学校や幼稚園の教員の教育力向上に力を入れたいと思う。今回のこども条例を受けて、自分の気持ちを伝えられない子どもがいた場合、話を聞ける体制と教育力をつけていきたい。 ・若者計画については、健全育成は時代遅れではないかというご意見もいただいた。とは言え、若者は未熟で、今回墨田区が教育の観点から新規事業で行っ

	た闇バイト対策で、中学生から高校生、その友達まで闇バイトに関わりそうになったという事があった。 ・闇バイトやオーバードーズなど、5年で課題が変わってきているため、地域、健全育成に関わっている皆さんと協力しながら墨田区一丸となって、地域の若者をしっかりと見守っていくということで、若者計画にはそういった言葉も入れさせていただいた。 ・計画に入れ込んだ事業をしっかりと進めていくように頑張っていきたいと思う。
事務局	・以上をもって、令和6年度墨田区子ども・子育て会議を終了させていただく。本当にありがとうございました。

4 閉会

以上